

## 俳句は回路 外の世界と自分をつなぐ

俳句界の外から、彗星のごとく現れた。フランスに住み、俳句は独学で始めて4年ほど。昨秋に初句集『フラワーズ・カンフー』（ふらんす堂）で注目が高まり、今年、新鋭俳人を対象とする田中裕明賞を受賞した。

あたたかなたぶららさなり雨のふる  
ふるぺらのふるんふるんと花の宵

柔らかな韻律が香気を放ち、ひらがなの丸みがエロチックにさえ見えてくる。耳も目も楽しませてくれる。

短歌や散文も織り込まれた句集は独自の言葉の世界をなしており、漢詩や哲学の素養ものぞく。賞の選考では、「わからない句も多い」とされつつも「洗練さ

俳人 小津夜景さん(44)



れた新しさと勢いがある」などと評価された。

4年ほど前、ネットで偶然見た句集の装丁にひかれて「ジャケ買い」するま

で、俳句とは縁がなかった。その俳人に会いたくて、審査員を務める賞に応募したのが詠み始めたきっかけだ。

「俳句は短くて、言おうと思ったときに終わってしまうのがいい」。大学で学んだ哲学とも相性がよいと感じた。冒頭の句の「タブラ・ラサ(たぶららさ)」は白紙状態を表す哲学术語でもある。もともと和歌を読むのが好きで、「新古今和歌集のような明るさや軽やかさを持ちつつ、哲学的なものが浮き上がる俳句を詠みたい」と話す。

2000年に留学で渡仏。俳句を始めるとあまり帰国しなかったが、今は俳人と語り合いたくて、年に一度は日本に。「人間が好きだけど苦手。俳句は、そんな自分が外の世界とつながる回路になっています」

(小川雪)

作品らしく楽しい。

大きなお尻で相手をつぶす  
必殺技のプロレス女王に、陽

気で勤勉な日系3世の兄弟。

## 池上永一さん 4年ぶり長編「ヒストリア」

文化が誇らしく思え、沖縄に